

瞑想的なシンプルさ

2001年10月21日(日曜日)

角永展のために西洋の皮肉を脇に置く

文・ Dave Gagon

Deseret News ビジュアルアートエディター

ソルトレイクアートセンターの角永和夫展(Now. 25まで)に足を踏み入れて、不審な西洋の目で見ることにはできません。

楽しみたいのではありません。代わりに、伝統的な西洋の現実的/物語的芸術の偏見を一時的に脇に置き、還元的単純さという日本の考えにあなたの心を開いてください。できれば「角永和夫：木・竹・紙・ガラス」は、自然の素材の美しさへの理解を深めてくれます。

あなたが必要なマインドシフトをすることができないならば、「彼らは彼らが冗談を言っていると誰が思うか」という罵倒。

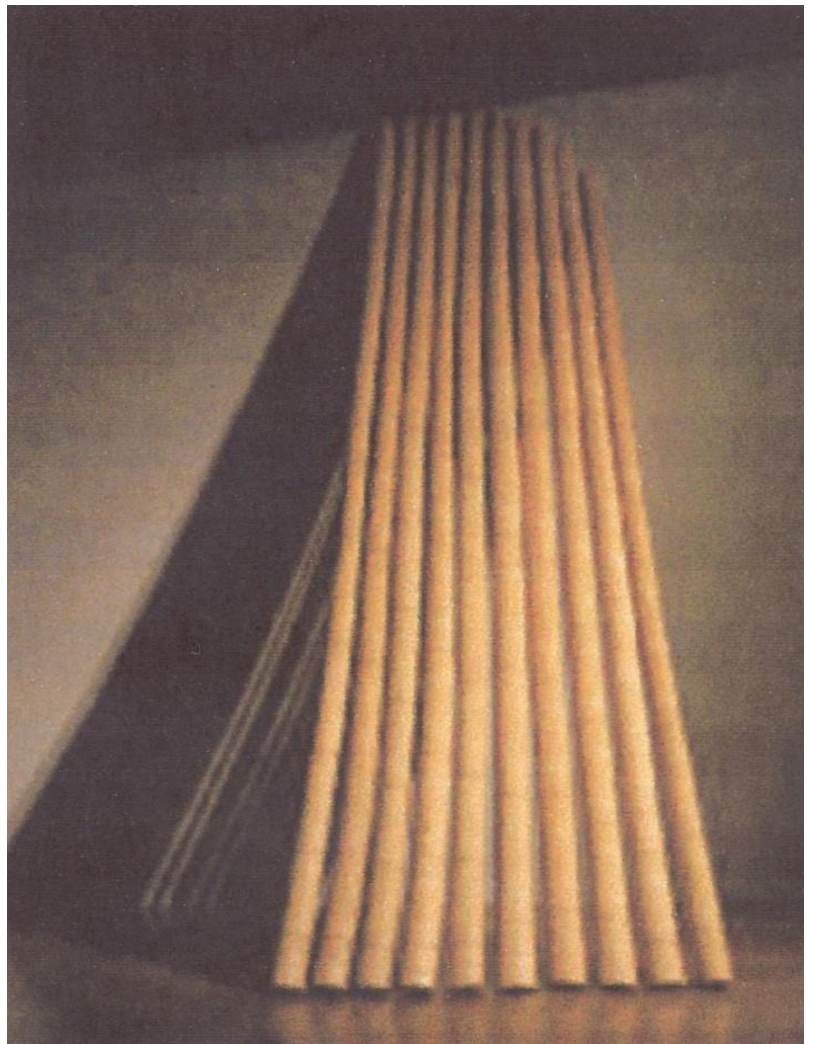
あなたの顔にしわが寄り、展示品はあなたを動揺させ、不満を残します。

角永は「遅咲き」もの派アーティストと呼ばれることもある(もの派アートは、素材とアーティストの関係、素材そのもの、素材と展示スペースの関係に関心を持っていた。運動は活発だった。1968年から70年の間。)

しかし、近藤幸雄氏は、彼の展覧会のエッセイで、角永氏は「素材が自ら形を決定するシステムの開発に主に関心を持っている」ため、ポストモノハアーティストと見なしている。

展示に付随するカタログの中で、芸術評論家のジョシン・ランコ・スターレルズは、角永の作品は「アジアの敬虔で瞑想的な態度と西洋のミニマリストの美的および概念的なアイデアを融合させた方法でかなり自然に進化した」と述べています。

木、竹、紙、ガラスの作品で構成される展示は、角永の20年にわたる芸術です。SLACのメインギャラリースペースを利用して、タオテチンの言葉を思い起こさせます。ホイールは30本のスポークで構成されていますが、ホイールの全体的な形状を決定



“Bamboo No. 2D” (bamboo, 19 pieces, each 5 by 177 inches) Paul Barker, Deseret News

するのはスポーク間のスペースです。

「角永和夫：木、竹、紙、ガラス」の全体的な形は、すべての生き物への畏敬の念に包まれた、率直なミニマリズムです。彼の家族が製材所を経営していたので、角永は彼の最初の彫刻材料として木を選びました。これは1971年のことでした。木とステンレス鋼と透明なアクリルを組み合わせ、彼は三次元の最小限の作品を作りました。

現在のSLACの展示では、アーティストは木材のみを使用しています。

彼の「Wood No. 8k」は、信じられないほどの精



**“Glass No. 4M” (glass, 27 by 36 1/4 inches, 1,350 lbs.)
Paul Barker, Deseret News**

度で無数のカットで切り込まれた、剥ぎ取られて砂で覆われた丸太であり、ツリーリングデートの代替システムの視覚的な議論を開始します。豪華です。

角永が次に取り組んだ素材は竹でした。彼はそれを焦がし、分割し、積み重ね、吊るし、そして他の材料と組み合わせました。このショーでは、角永の最高の竹の作品が、茎の途中で木の複数の分割が、自然界における材料の潜在的な二重性についてどのように語っているのかを示しています。

1982年、角永は最初の論文を展示した。素材に不慣れなアーティストは、製紙業者を訪ねて自分の紙を作り始め、それを大きくて充実した正方形や長方形に彫刻し、押し合わせてからはがしました。

「Paper No.1 bb」では、アーティストは、数インチの厚さの2つの三角形を提供します。これらの三角形は、幾何学的すぎて自然にはなりません。おそらく、人間の時折の干渉を示すための彼の哲学の破れです。

紙と同じように、角永はガラス工場を3年間訪れてガラスに親しみ、素材の性質に親しみました。最初、彼はガラス鑄造を試みました。

「彼は、キャンディーシロップのような溶けたガラスの粘着性、通常の安価なガラスの光の屈折によって生成される緑の色調、透明性、繊細さ、壊れやすさ、重さに興味を持

っていました」と近藤は書いています。

角永は次の10年間、彼の介入なしにガラスがそれ自身の特徴を示すことを可能にするシステムを開発し、それによって彼の芸術的信念を強調した。

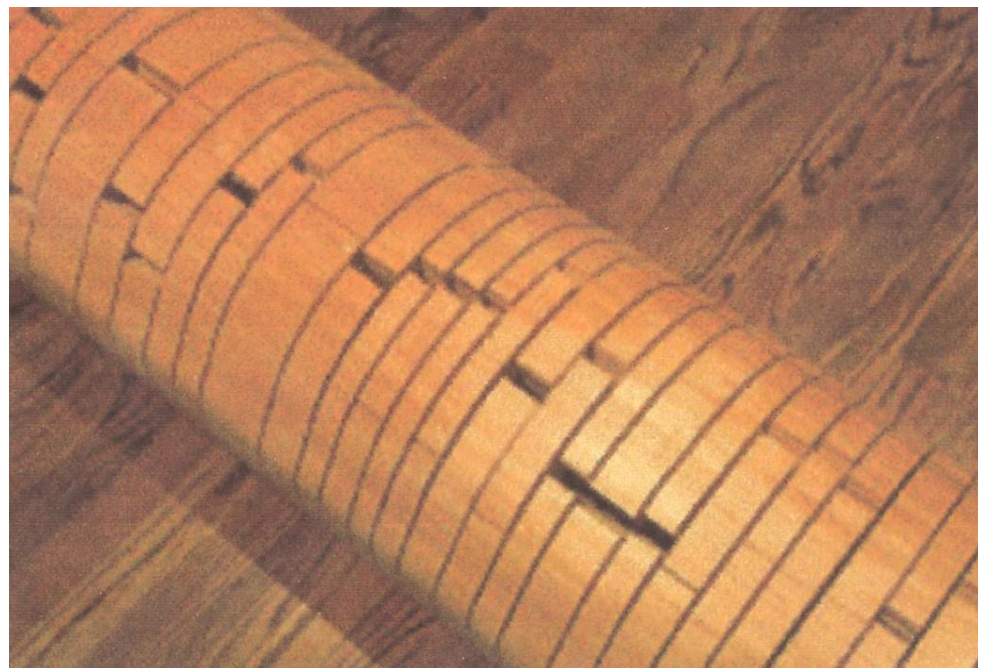
ガラスは炉で溶かされます。溶融材料の粘度と重力を使用して、細い糸でクーラーに落とし、ガラスを硬化させ、新しい層を追加して、豪華で半透明のスタラグマイトを作成します。

100日間冷却した後、SLACでの4つの作品のシリーズの1つである彼の「Glass No.4 M」のように、結果として得られる彫刻は催眠術

と魅惑的です。

日本人は、アーティストが意図的に不完全なままにしたものを視聴者が完了するまで、芸術作品を真に理解することはできない（または完成させることさえできない）と信じています。これは視聴者の心の中で行われるべきです。

角永のミニマリズムはそのようなパートナーシップを要求します。そして、彼と一緒にアートを完成させることができれば、「角永和夫：木、竹、紙、ガラス」はユニークでスピリチュアルな体験になるでしょう。



“Wood No.8 k” (detail) Paul Barker, Deseret News